

農家と消費者が共に探し出す 持続可能な食

地場素材活用の価値、在来作物で食文化醸成、水田生態系保全

(公財) みやぎ環境とくらしネットワーク(MELON)理事
三浦農園 三浦隆弘



仙台せり鍋はムーブメント

□自己紹介

□「セリ鍋」の過去、今、これから

- セリ鍋論概略、自然再興
- そもそもの経緯、契機
- 仙台の独自性、前例
- 展開の難しさ、品質管理の苦労
- 地域連携、波及効果、地域価値共創
- 土着性、地域性、季節性、ローカルプライド
- これから、食文化醸成、その先は

宮城県名取市 セリ

□ <春の七草 万葉集 日本原産野菜>

- ・お正月の行事料理「仙台雑煮」「七草粥」

日本最大の産地宮城県。名取は県内最大産地。

R2年収穫量全国1070tのうち宮城県424t。

上余田村の肝煎が1776年に記した文献で、
1620年からセリ栽培が始まっていたと記載。

伝統野菜、在来作物の魅力

「おいしい生きた文化財」

・地域固有性の高い独自の地域資源。

保存・継承で食文化の発掘、
食生活提案、食産業活性化へ。

「時間」「場所」「食育教材」そして
「かけがえのなさ（代替不可能性）」

地域に誇りを持ち世界へ向けて、
交流を促す力、求心力を育てる。

食材、商材でなく地域を学びあう教材

セリ田の多様な生態系マンダラ

- 餌場、寝ぐら、繁殖地 田とイグネ回廊
- 希少な野生動植物の生息地、分解者
- 2024年は「湿地と人間の幸福（Wetlands and Human Wellbeing）」が世界湿地の日のテーマ。
水田は多様な生きものにとって大変重要な人工的な湿地。食料生産の場でもあり、人間に多大な幸福をもたらす。
- ニッポンの里山ふるさとの絶景に出会う旅「命にぎわうセリの田んぼ 宮城県名取市」 NHK2017、2024再放送

セリを食べると生息地保全に



イチョウウキゴ
ケ
ヒメゲンゴロウ
多種のクモ
シギサギ類

アメリカザリガ

仙台セリのしゃぶしゃぶ鍋

- ・「根が主役」「地場、地元資本の店で」
- ・セリ鍋はブームからムーブメントへ



セリ鍋ブームの変遷(仮)

- ・始まりは03、04年。口コミとSNS
- ・広がるお店、08、09年に急増
- ・震災による需要拡大と引き受けた役割
- ・多種多様な参入による粗製乱造危機
- ・「地の場、地の店、地の資本」
- ・東日本ぜんたいの商材に
- ・「仙台ならでは」を欲する仙台
- ・身銭切って食べ支えて頂けたからこそ

これからの課題

- 生産消費、質量ともに不安定 育成急務
- 飲食会食需要、国内外観光需要、家庭需要
- 震災から 10 数年で定番、陳腐化
- 飲食店急拡大で食品事故リスク
- 稲作栽培条件不利水田でスマート農業
- ローカルガストロノミー、テロワール、
スローフード。食文化醸成、定着へ
- 人も野菜も根がだいじ。

農家と八百屋と飲食店と

肴町匙

東北ココから
withコロナ 東北で広がる「食の変革」
(10日午後7:30)

NHK

これが
おすすめ

及川秀治さん
野菜の直売をしている居酒屋の店主

農家を支えて共存図る

新型コロナウイルスで深刻な影響を受ける飲食店。客が激減し経営難に陥る店が増えている。そんな中、

東日本大震災の教訓を生かし、地域で経済を回す新たな取り組みが広がる。仙台市青葉区の居酒屋は取れたて野菜を店頭販売。これまで野菜を店頭販売。約600人に。扱う野菜も90種類に増やした。居酒屋の来店者は4月下旬以降、倍に急増。売り上げ減に悩んでいた生産農家が直接つながることで共存を図っている。農産物の直販サイトも活気つく。「ステイホーム」の浸透で、注文が以前の10倍に急増。売り上げ減に悩んでいた生産農家の支えになっていた。経済活動の低迷している。経済活動の低迷が懸念される今、地域を救う東北発の「小さな循環」の動きを紹介する。(ディレクター 松本真理子)



一例>
畠から食卓へ、
フードバリューチェーン協調

地域飲食店の、
社会教育的「場」
食育食文化、
学び合いの拠点へ

現場
現実
現物。
Itの次のリアル

ハブ化による、
結合利益

農民性の理想像

EU農業政策より抜粋

□ 持続性と安定性

- ・次世代に対する責任
- ・「子供達から預かった大地」
- ・循環に関係付けられた農業経営
- ・健康な土壌の維持

□ 多様性

- ・危険の調整
- ・所得形態と生活形態の多様性

□ 生活に対する責任

- ・自分自身の生活に対する誇り
- ・他社の生活需要に対する尊重

□ 生活空間との結合性

- ・自分の土地
- ・土地、植物、動物との個人的な繋がり
- ・自分の故郷の世代的継承
- ・これらの「故郷」の総計 = 文化景観、文化景域

国連「家族農業の10年」と「小農の権利宣言」、
欧洲グリーンディール「農場から食卓へ」、多種多様な農業

地域農業の個性、多様性
旬に本場に地元資本に
地域内で田んぼと台所をつなぐ、
生物多様性と食文化を醸す

